

ありきたりな、異世界
召喚

天草 月夜

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

この物語は、ありきたりなよくある異世界召喚である。

アマクサ ツクヨ

主人公、天草 月夜（15）

彼女なし、勉強、運動共にそこまでできない、微妙な男である。

しかも、この男はどこぞの勇者のような聖人君子ではなく、めんどくさがりやで、怠惰な生活を送っており、読書とゲーム、寝ることが大好きな受験生としての自覚が一切ない、穀潰しである。

そんな、男が異世界に召喚され、テンプレと化したこの世界を魔王の手から救ってく

れ！という願いに対してどうするのか…

くどいと思うがもう一度、

この物語は、ありきたりなよくある異世界召喚である。

目次

いつもの日常

1

いつもの日常

月曜日、学生なら誰もが1度は思うことだろう、昨日までの天国を返してくれ…と。

部活や塾で忙しくて、平日の方が楽？そんな奴等は知らん。

主人公天草 月夜は、そう思う者の1人である。

何時も通り、月夜は8:00には学校についている。8:30には教室にいればいいので少し、いやかなり早い。なぜ、怠惰の極みのような、月夜がこんなにも、というほどもでもないが、早く学校に来るのには理由があった。

それは、教室の自分の机で寝ることだ。はあ？そんなことのために早く来てるの？もう、家で寝てから来いよ、と思うことだろう。教室で寝るのと家で寝るのでは大きな違いがあるのだ！それは…：…なんだろう？普段勉強している場所で寝るのは何かいいんだよねえ。ただ、それだけの理由で早く来ているのだ。

8:20この時間になると、だいたいの人が教室に入ってくる。

「おはよう〜月夜また寝てるの？」

「……」

「どうせ起きてるんでしょ!!」

「…朝からうるさいな…」

「起きない方が悪いんだよ！」

俺を無理やり起こした、この女…ではなく、女の子のような男、つまり男の娘である。名前は、十六夜 零華、髪は銀髪のショート、伸長は160位、碧目のかわいらしい顔をした男、生まれる性別間違えてるやつである。あっそう言えば自分の容姿をいつていなかった…黒髪黒目、髪は目にかからない程度に生えていて、伸長は170前半、目が死んでる冴えない男である。

「別に俺が寝ていてもいいだろ、時間まだあるし。」

「だくめ！また、そのままぐっすり寝ちゃって、怒られるよ。」

「うぐっ…ハイハイわかった、起きます。」

「ハイは1回！」

「はい…つておまえは俺の母親か!!」

「あはは！そうだね、私お母さんだね〜」

「乗るのかよ…」

「そう言えば、数学のプリントやって来た？」

「数学のプリント？…やべえやってねえ」

「やっぱり、こんなに早く来れるならやればいいのに」

「忘れてたんだよ、プリントの存在を…」

そう言えばいつていかなかった、この男、天草月夜は物忘れがおじいちゃんたちよりもひどいのである。

「あくまた、数学のババアに怒られる…あのババアの説教は長すぎる…」

「しようがないなく私が見せてあげようか？」

「本当か！サンキューー恩に着るぜ！」

「次はちゃんとやるんだよ？」

「覚えてたらやる…」

とまあごく普通の日常である。銀髪の男の娘の幼なじみなんて存在しない？そんな子いる時点で普通じゃない？そう思う人もいるだろう。だが、この物語はこれが普通だ！納得しろ！…すいません、調子にのりました。

そんな日常が突然壊された…異世界からの召喚によって…